

私の好きな場所

エイアンドピープル社長
浅井 満知子
Asai Machiko



起業の3年前に中目黒に一軒家を購入し、その1階の6畳一間を事務所に事業を始めたのが今から15年前のことです。現在のオフィスは恵比寿になります。が、起業してからの約1年、この場所で過ごしました。

女性でも一生働ける仕事をしたいと、歯科技工士の国家資格を取得し、社会人生活をスタートしました。しかし、世に出て学んだことは「自分の代わりはいくらでもいる」ということでした。そこで「唯一の存在」として仕事をしようと、IT企業、翻訳会社を経て「エイアンドピープル」を起業しました。結婚して、子どもが生まれて

も、定年まで続けられる仕事をしたい。しかし、そういう会社は現実には少ない。それならば、自分も含め、同じ考えを持つ女性の活躍の場を作るためにと、起業しました。

しかし、起業してからは、なかなか顧客の獲得もできず、時間をもてあそび不安でつぶされそうな日々。自分を律し、昼間は営業の外回り、夜は勉強会や交流会に出掛け、事務所でするものは夜中に集約してとにかく人との交流を心がけました。

また、線路脇の物件だったので、朝、始発の電車が動き出す音で目覚め、そのまま仕事を開始していました。

常に不安と背中合わせの毎日でしたが成功したときのイメージを思い描き、自分自身を奮起させ、事業の基礎を築いたのも、この6畳一間からでした。

当社は、企業のIR・決算資料、仕様書、契約書などのビジネス翻訳事業を手掛けています。社員は全員女性で業務は顧

客別にプロジェクト単位で対応し、品質管理を行っており、翻訳業界全般に残業の多い職種ですが、システム化を駆使し、フラットな組織風土で情報共有を密にし、生産性の向上を図り、全社的にワークライフバランスに取り組んでおります。

そうした中で、女性により輝いて欲しいと始めたのが化粧品事業です。

わたし自身、若い頃から、仕事中心で不規則な生活を送っていたせいか、40歳で出産後、ホルモンバランスが崩れ、肌がボロボロになり、外出することも億劫で、辛い思いをしました。その時の経験から、結果の出る化粧品を出せば、ニーズはあると考えました。そこで、安全な成分と忙しい女性にシンプルなお手入れで済む、時短美容をキーワードにした化粧品を開発。口コミで広がり、現在は自社サイト限定

で販売しています。

女性が働きやすい社会を目指すとともに、女性が自立し、仕事だけでなく、プライベートの幸福も実現できる会社を追求し、実現していきたいと思っています。

6畳一間のオフィス



起業前の米国企業でのインターン時代の同僚と



中目黒の自宅兼事務所。この1階の6畳一間で起業